



四日市市立
港中学校だより

青葉旬う

令和6年4月10日
No.1 発行:校長

令和6年度がスタートしました！

4月に入って暖かな日が多くなり、校庭の桜は皆さんの進級・入学を祝福するかのように満開となっています。4月8日（月）には、令和6年度の始業式、入学式が行われました。今年度は67名の新入生を迎えて、全校生徒182名でスタートしました。

入学式では私（校長）から次のこととお話しました。



入学式 校長式辞（一部抜粋）

入学にあたって私から皆さんに、港中学校が大切にしている2つの「めざす生徒の姿」についてお話ししたいと思います。

1つは、「あいさつと笑顔を大切にする生徒」、
もう1つは「自分も他者も大切にする生徒」です。

まず、「あいさつと笑顔を大切にする生徒」です。

あいさつは人と人との関わりあい、コミュニケーションの基本です。「私はここにいますよ」「あなたがそこにいることを私は知っていますよ」という合図を交換し合っているのです。つまり、あいさつはお互いの存在を認め合うこと。だから、あいさつをすると気持ちがよくなるのではないのでしょうか。ほっとした気持ちになるのではないのでしょうか。

また、笑顔には、体の中に「幸せな気持ちになる物質」を出す効果があるともいわれています。同時に、笑顔は相手に対して「私はあなたの敵ではありませんよ」というメッセージを送るものでもあり、相手に対して安心感や親しみを与えたり、その場の雰囲気明るくしたりする効果があるそうです。

これまでできていた人はこれまで通り、そうでなかった人は今この瞬間から、「あいさつと笑顔を大切に」してください。



次に「自分も他者も大切にする生徒」です。

いろいろな見方がありますが、私は「自分を大切にする」とは、ありのままの自分を受け入れ大切にできることではないかと思います。つまり、「よいところも悪いところもひっくるめて自分らしさなのだ」と思えることです。同じ意味

で「自尊感情」や「自己肯定感」と言ったりもしますね。

でもこれは他人と比べて勝ち負けを決めたり、自分中心にふるまったりすることではありません。むしろ自分の弱点や欠点は認めつつ、「でも、よい所もあるし、このままで大丈夫だよ」と、自分に OK を出せることだと思います。

では、「他者を大切にすること」とはどういうことでしょうか。簡単に言えば、自分を大切にすることと同じように、相手の存在をありのままに認めることではないでしょうか。「あの人は自分と違う」と最初から相手を否定せず、意見や考えなどの違いを受け入れ、「相手を尊重すること」と言ってもいいでしょう。

「相手を尊重する」といっても、自分と相手の意見が違った時に自分を抑えて、相手の意見に合わせるということではありません。相手の意見に賛成できなくても「この人にはこういう考えがあって、こんな風に言っているのだな」と考え、理解することが「尊重する」「他者を大切にすること」ということではないでしょうか。

港中学校では、日常の教育活動はもちろんのこと、体育祭などの行事を通して、皆さんがこれらの力が身に付けられるよう工夫しています。しっかり学習に取り組んでほしいと思います。

しかし、これからの中学校生活で人間関係など、様々なことに悩むことがあるかもしれません。困難に立ち向かうこと、それも勉強ですが、自分ひとりでは解決できそうにないときは、家族、友達、そして先生に相談してください。一人では難しいことも、周りの手助けを借りることで解決できることがたくさんあります。

繰り返します。「挨拶と笑顔を大切にすること」そして「自分も他者も大切にすること」この二つをぜひ意識しながら学校生活を送ってください。

新年度のごあいさつ

前任の成田校長より引き継ぎ、今年度、四日市市立笹川中学校から本校の校長として着任いたしました中井克実でございます。伝統ある港中学校に着任するということが、身の引き締まる思いを感じています。また、今年度、私を含めて新しく10名の教職員が着任いたしました。

私たち教職員一同、日頃から本校の教育を温かく支えていただいている保護者、地域の皆様方の思いを大切にしながら、学校経営・運営を進めてまいりたいと考えています。微力ではありますが、子どもたちが、本校の生徒として誇りを持てるよう学校教育を進めていく所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。

四日市市立港中学校 校長 中井 克実